

なければならぬのかをしつかり考え取り組むこと、それが災害ボランティアとして何が出来るかにつながります。また自分が正しいと思っていることが、相手にとって正しいかどうかはわからない。だからこそ日頃から互いのコミュニケーションを取る事が大切。

### 講座を終えて

参加者からは「災害時のコミュニケーションの大切さがわかった」、「災害対応の準備を日頃から行っていたい」、「等の感想が寄せられました。

災害が起こる前にどんな準備が必要か、日頃から個人や地域で考えていくことが自分を救い、最終的には他人を救うことにつながる。そのコミュニケーションこそが地域の絆であり、いざという時に力を発揮します。「人と人を結ぶ地域の絆」こそが災害を最小限に食い止める力の原点です。

\*1 災害救援ボランティア推進委員会：阪神・淡路大震災を契機に災害救援ボランティアリーダーを育成するために設立された全国的な団体。

## 市内の集会施設をご活用ください!!

### ～子どもから高齢者まで地域集会施設を活用することで地域の輪が広がります～

#### 地域住民の集会施設

現在、羽村市内には「地域住民の学習や保養、集会等に利用するため」の集会施設が23箇所あり、各町内会の活動、地域・福祉・社会教育・青少年活動や各種サークル活動など、地域の皆さんのコミュニケーション活動や地域交流の拠点として、大いに活用されています。

施設自体は市の公の施設ですが、管理運営については、地域の皆さんのご協力により、会館ごとに町内会で組織される「会館運営委員会」に委託しています。会館の貸出業務（申請受付・使用料收受）や日常管理（清掃・衛生用品補充・施設管理等）などの施設運営全般にわたって会館運営委員会が行っており、まさに「地域住民の施設」となっています。

最近では、地域のコミュニケーション活動に加え、ボランティア活動やNPO活動で地域の課題などを解決していくための活動拠点としても、この集会施設が活用されています。

#### 地域集会施設の活用例

そんな地域集会施設の活用例を紹介します。

ある町内会では各種町内会事業の他に社会福祉協議会の小地域ネットワーク活動として、カラオケや手芸、団欒の場として地域住民に開放していたり、食事会やお茶飲み会などのふれあい活動や高齢者の健康づくり活動、消費者問題等の自主的な講座の実施場所としても活用されています。

また「保育園との交流会」や「子育てひろば」として子育て世代のお母さん方の活動拠点にもなっていて、地域の子育ての一端を担うなど、地域集会施設の役割は広がっています。

こうした皆さんが集会施設を利用する事で互いに顔を合やす機会が増え、利用者同士のコミュニケーションの輪が広がり、親近感や連帯感が生まれてきます。



このような地域の活動が活発化することにより地域の課題や課題が見えてくるとともに、地域のことは地域で解決するという「住民自治」の意識が高まり、自治会・町内会を始めとする地域の市民活動がさらに盛んになっていきます。

今後、「ふれあい」と「つながるおひら」のある、より良い地域づくりのための中心となる活動拠点として、是非、地域集会施設をご活用ください。

利用方法・申し込み先の確認などは、地域振興課地域振興係（内203）へ。

\*2 NPO活動：一定の規模を備えた組織的な非営利活動。

\*3 小地域ネットワーク活動：小地域（概ね町内会・自治会区域）を単位として要援護者一人ひとりを対象に市民同士が共同して進める見守り・援助活動。